

指導資料



鹿児島県総合教育センター

外国語活動 第2号

—小学校，特別支援学校対象—

平成22年4月発行

英語好きを育てる外国語活動の授業設計 —コミュニケーション能力の素地を養う活動の工夫—

現在，新学習指導要領の移行措置期間として，多くの小学校においては，外国語活動を教育課程に位置付け，授業の充実に向けた取組が展開されている。

外国語活動の目標は，「外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う。」と示されている。

したがって，児童が体験的にコミュニケーション能力の素地を体得できるような活動を行うことが求められる。

そこで本稿では，英語好きを育てる外国語活動の授業の充実を目指し，コミュニケーション能力の素地を養う活動の工夫について述べることとする。

1 外国語活動の基本的な考え方

小学校学習指導要領解説外国語活動編において，「コミュニケーション能力の素地」とは，「小学校段階で外国語活動を通して養われる，言語や文化に対する体験的な理解，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度，外国語の音声や基本的な表現

への慣れ親みを指したものである。」と述べている。

この「コミュニケーション能力の素地」を養うためには，「言語や文化に対する体験的な理解」，「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」，「外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ」などの三つの要素を取り入れた活動を統合的に体験させるような授業設計を行う必要がある。そのためには，授業設計を行う際，中学校外国語科のように「聞くことができる」，「話すことができる」などの技能の習得を図る視点から活動を設定するのではなく，何度も聞いたり話したりする活動を繰り返しながら，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるような活動を工夫することが大切である。

例えば，canを用いた基本的な表現に慣れ親しませる際，ALTに日本の伝統的な遊びについて，canを使って紹介したり，出身国の遊びについて尋ねてみたりすることで，国や地域によって遊び方も様々であることに気付かせる活動を工夫できる。

また，世界の国々の衣装を紹介させながら，様々な普段着の表現の仕方に気付かせ，

それらを買物する場面を設定し、英語を使って買物をする楽しさを体験させる活動なども考えられる。

2 「コミュニケーション能力の素地」を養う活動の工夫

(1) 単元の指導計画作成上の留意点

ア 単元目標と内容の設定

外国語活動の目標に沿って児童に行わせたい活動のねらいを明確にする。

その際、児童が興味・関心をもっている身近な題材を取り扱うようにする。

例えば、「外来語を知ろう」（英語ノート1：Lesson 6）のように、児童が普段何気なく使っている外来語を取り扱うことで、外来語とそのもとになる言葉の発音を聞かせてその違いに気付かせ、日本語に対しても改めて興味・関心を高めるような題材を取り扱うことが考えられる。

イ 主な語彙や表現の選定

語彙は身近で日常的に使用されるもので聞いて理解できる程度のものを扱うようにする。また、表現は、児童にとって長い文や複雑な表現となるようなものは避け、児童の実態に応じたものを選定するようにする。

例えば、児童が何かをヒントに聞いてみよう、話してみようとするようなもの、「あいさつ」、「自己紹介」、「買物」などのようなコミュニケーション場面に必要なものを扱うことが考えられる。

ウ 目的に応じた活動の設定

外国語活動の中心となるコミュニケーション活動を行っていくためには、「話し手」と「聞き手」が情報や知識を「伝える・知らせる」ような相互の関係をつくる活動内容を工夫したり、全体活動、グループ活動、ペア活動、個別活動などの活動形態を工夫したりする必要がある。

例えば、単元全体を通して、聞く活動から発話をまねる活動（全体活動）、発話の練習をしながら自分のものにする活動（全体活動）、そして、ゲームやコミュニケーション活動の中で自分の意思で発話する活動（ペアやグループ）へ流れるように設定する。

エ コミュニケーションの楽しさを味わわせる活動の設定

児童が慣れ親しんだ語彙や基本的な表現を活用して様々な相手と互いの思いを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験できる活動を設定することが大切である。

例えば、児童がALTと直接コミュニケーションを図ることを通して、日本の習慣や文化とは違う、様々な習慣や文化が世界にはあることに気付かせる活動を設定することが考えられる。このような活動を通して、児童に外国語を通じてコミュニケーションを一層図りたいという意欲を引き出したい。

(2) 授業設計上の留意点

ア 「聞く」活動と「話す」活動を効果的に取り入れる。

1 単位時間の授業設計を行うに当たっ

では、取り扱う題材及び語彙や基本的な表現などに応じて、「聞く」活動と「話す」活動を効果的に取り入れるようにする。

例えば、早急に児童に話すことを求めず、様々な活動を通して十分に語彙や基本的な表現を聞かせてから、「話す」活動に取り組みさせる。

イ 聞いた語彙や基本的な表現を繰り返して使う活動を取り入れる。

CDやALTの英語を聞いた後、発話させる活動を行うようにする。その際、語彙や基本的な表現を単に機械的な練習として繰り返すのではなく、チャンツやゲーム等の活動を通して、児童がその語彙や基本的な表現を楽しみながら練習し、慣れ親しむことができるよう工夫することが大切である。

例えば、「将来の夢を紹介しよう」（英語ノート2：Lesson 9）においては、児童が楽しみながら職業についての語彙や基本的な表現を繰り返し練習するためのビンゴ・ゲームなどを行う活動が考えられる。

ウ 慣れ親しんだ語彙や基本的な表現を使用したコミュニケーション活動を取り入れる。

慣れ親しんだ語彙や基本的な表現を使って情報や知識を「伝える・知らせる」ようなコミュニケーション活動を行うことで、積極的にコミュニケーションを図ったり、言語や文化について体験的に理解を深めたりすることが期待できる。

例えば、「自己紹介をしよう」（英語ノート1：Lesson 4）においては、自分の好きなものを含めて、お互いに自己紹介をし合う活動が考えられる。

また、「オリジナルの劇をつくろう」（英語ノート2：Lesson 8）においては、大筋を変えない程度に劇の台本などの語彙や表現を入れ換えて、児童がオリジナルの劇を作成し、発表するなどの活動が考えられる。

3 「英語ノート」を活用した活動の工夫例

英語好きを育てる外国語活動の授業設計について、「英語ノート2」を活用し、コミュニケーション能力の素地を養う活動の工夫例を述べる。

【英語ノート2（文部科学省）】

(1) 単元：Lesson 3

「友だちの誕生日を知ろう」

(2) 学年：第6学年

(3) 単元の目標

ア 世界と日本の祭りや行事に興味をもつ。【言語や文化についての体験的な理解】

イ 積極的に友だちに誕生日を尋ねたり、自分の誕生日を答えたりする。

【積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度】

ウ 英語での月の言い方や、誕生日の言い方に慣れ親しむ。【外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ】

(4) 単元の主な内容

ア 主としてコミュニケーションに関すること

児童にとって身近な誕生日を扱うことを通して、自分の生まれた誕生日について紹介したり、積極的に友だちの誕生日について尋ねたり答えたりしながらコミュニケーションを図る楽しさを体験する。

イ 主として言語や文化に関すること

世界のいろいろな行事を通して改めて日本の文化を振り返るとともに、月名や誕生日の言い方に慣れ親しむ。また、ALTやゲスト・ティーチャーなどと誕生日を尋ね合うなどの交流を通して体験的に理解を深める。

(5) 主な語彙及び基本表現

ア 語彙

January, February, March, April, May
June, July, August, September, October,
November, December, birthday, month,
first, second, third, ~ thirty-first (序数),
grandmother, grandfather, brother, sister,
father, mother,

イ 基本表現

When is your birthday?

My birthday is I want ~, please.

Which month?

May? August? February?

March 3rd? December 30th?

(6) 単元の指導計画作成上の工夫

ア 活動内容の設定

児童にとって、身近な月名を扱うことにより、季節ごとの行事も題材として取り入れる。また、世界と日本の祭りや行事を通して、月名を英語でどのように表現するかを知り、互いに誕生日

日を尋ねたり答えたりする活動を行わせる。

イ 語彙や基本的な表現に慣れ親しませる活動の設定

月名や日付などの語彙に慣れ親しませるため、「カルタゲーム」、「序数ゲーム」、「オリジナルカレンダーをつくるゲーム」など、繰り返し聞いたり、発話したりする活動を多く取り入れる。その際、「英語ノート」の音声教材を活用し、語彙や基本的な表現を繰り返し聞かせたり発話させたりすることで、英語特有のリズムやイントネーションなどに慣れ親しませるようにする。

この語彙や基本的な表現に慣れ親しませる段階においては、「外国語を通じてコミュニケーションを図る楽しさを体験する」ための基本となる活動として、児童が自ら参加していく活動を創り出すことが大切である。

ウ コミュニケーションを図る楽しさを味わわせる活動の設定

慣れ親しんだ語彙や基本的な表現を活用してALTやゲスト・ティーチャーに日本の行事などを紹介する交流の場を設定する。その交流に向けて、児童の誕生日に行われる伝統的な行事などについて紹介できるように、写真や絵、具体物等を準備させる。また、ジェスチャーなどを活用して行事の内容などを表現させたり、ALTやゲスト・ティーチャーに自分の思いを伝えたりするなど、児童にコミュニケーションを図る楽しさを味わわせる。

(7) 単元の指導計画例

	目標及び主な活動	備考
第1時	目標：「月の言い方で遊ぼう。」 <英語ノートを活用した活動の流れ> Activity → Let's Play → → Let's Chant → Let's Listen <主な活動> ・単元の学習計画の把握 ・キー・ワード・ゲーム →語彙(月名)に慣れ親しむ。 ・仲間集めゲーム →同じ誕生日で集まる。 ・ミッシングゲーム →序数(1～10まで)を知る。	・英語ノート ・音声CD ・学習計画表 ・月絵カード ・月絵カード ・数字カード
第2時	目標：「日付の言い方で遊ぼう。」 <英語ノートを活用した活動の流れ> Let's Chant → Let's Play → → Activity → Let's Listen <主な活動> ・ミッシングゲーム →序数(11～31まで)を知る。 ・序数ゲーム →語彙(11～31まで)に慣れ親しむ。 ・誕生日について聞き合うゲーム → Which month? January? February? March?	・英語ノート ・音声CD ・数字カード ・数字カード ・月絵カード
第3時 (本時)	目標：「誕生日について尋ねたり答えたりしよう。」 <英語ノートを活用した活動の流れ> Let's Chant → Let's Listen → Activity <主な活動> ・クイズ(月名, 1～31までの序数) →語彙や表現を想起する。 ・カルタゲーム(月名, 日付け) →語彙や表現に慣れ親しむ。 ・オリジナルカレンダーをつくるゲーム(第3時と第4時で作成) (英語ノート2指導資料pp. 51-53) →聞いたり尋ねたりする。 When is your birthday? My birthday is ~. What do you want? I want <i>mochi</i> , please.	・英語ノート ・音声CD ・月絵カード ・数字カード ・カルタ ・カレンダー台紙 ・第4時のALTとの交流に向け、身近な地域の行事の写真や絵、具体物等を準備させる。
第4時	目標：「ALTやゲスト・ティーチャーと交流しよう。」 <英語ノートを活用した活動の流れ> Let's Chant → Let's Listen → Activity <主な活動> ・何月でしょうゲーム (英語ノート2指導資料p. 53) ・世界の行事の聞き取りクイズ →ALTによるクイズを行う。 ・オリジナルカレンダーをつくるゲーム(第3時と第4時で作成) (英語ノート2指導資料pp. 51-53) →ALTを交えて、ゲームを行う。	・英語ノート ・音声CD ・月絵カード ・世界の行事の絵、写真(ALTやゲスト・ティーチャーが準備) ・カレンダー台紙

(8) 本時の目標(3/4)

ア ALTやゲスト・ティーチャーなどの異なる文化をもつ人々と誕生日を尋ね合うなどの交流を通して、言語や文化について体験的に理解を深めることができるようにする。【言語や文化についての体験的な理解】

イ 月名や誕生日に関する語彙や基本的な表現を用いたゲームやオリジナルカレンダーをつくる活動などを楽しみながら、積極的にコミュニケーション活動に取り組むことができるようにする。【積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度】

ウ 月名や誕生日についてお互いに尋ねたり、答えたりするときに必要な語彙や基本的な表現に慣れ親しませる。【外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ】

(9) 本時の授業設計上の工夫

ア 月名や序数などの語彙を想起させるクイズを行う。また、語彙や基本的な表現に慣れ親しませるための絵カード等を活用したカルタゲームの活動を設定する。【語彙や基本的な表現に慣れ親しませる工夫】

イ 児童が自己表現を行い、コミュニケーションを図る楽しさを体験することができるようにオリジナルカレンダーをつくる活動を設定する。その際、同じ誕生日の友だちと協力して作成できるようにグループ活動を取り入れる。【コミュニケーションを図る楽しさを味わわせる工夫】

(10) 本時の実際

過程	主な児童の活動	時間	学級担任 (HRT)	指導上の留意点 ◎評価の観点 ●指導の工夫
導入	1 あいさつをする。	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気を始められるように明るく笑顔であいさつを交わす。 ・前時に扱った月絵カードと数字カードを活用し、月名や序数の言い方を想起させるクイズを行う。 ・前時に活用した月絵カードを黒板に設置し、チャンツ(Twelve Months)を行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつさせる。 ・語彙や表現に留意させ、クイズに答えさせる。 ●前時の語彙や表現を想起させる。
	2 月絵カードと数字カードを活用したクイズに答える。			
展開	3 チャンツを行う。	33分	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がカルタを読み上げ、各グループでカルタゲームを行わせる。(カルタを準備する。) カルタを教師が読み上げ、カルタを取り合うゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童が楽しみながら語彙や表現を繰り返し聞くことができるようにする。 ・語彙に慣れ親しませる。 ●途中でCDを止めるなど児童の聞き取る様子を把握する。 ◎目標となる表現に慣れ親しみながら活動できたか。 ●既習の表現を付け加えて、児童相互にやりとりができるようにする。 ※具体的方法については、「英語ノート2指導資料pp.51-53」を参照。
	4 本時の活動を確認する。			
展開	5 カルタゲームを行う。	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">対話2 英語ノート1 Lesson 6 の表現を活用 B: OK. What do you want? A: I want, please. B: OK. Here you are. A: Thank you.</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Let's look back. What did you enjoy (like)?</p>	
	6 CDを聞く。			<ul style="list-style-type: none"> ・Let's Listen (英語ノート2指導資料pp.48-49)のCDを聞かせ、登場人物の誕生日を推測させる。 ・児童がオリジナルカレンダーをつくる活動ができるように、児童自身の誕生日に関連する絵カードを英語でやりとりしながら探すよう指示する。
展開	7 オリジナルカレンダーづくりを行う。	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎楽しく活動できたか、協力して活動できたか。 ・次時にどのような活動をしてみたいかを聞き、活動への意欲を引き出す。 ・元気よくあいさつさせる。 	
	8 本時を振り返る。			5分
終末	9 次時の活動について聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の活動について予告を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎楽しく活動できたか、協力して活動できたか。 ・次時にどのような活動をしてみたいかを聞き、活動への意欲を引き出す。 ・元気よくあいさつさせる。 	
	10 あいさつをする。			<ul style="list-style-type: none"> ・英語であいさつをする。

(平成21年度移動講座 蒲生町立蒲生小学校指導案を基に作成)

このような授業設計を行うことにより、児童に外国語活動の楽しさを体験させ、「コミュニケーション能力の素地」を養うことが可能となる。各学校において、外国語活動を通して、英語好きを育てる授業の取組を一層期待したい。

【引用・参考文献】

文部科学省『小学校学習指導要領解説外国語活動編』平成20年
文部科学省『英語ノート1・2指導資料』平成21年3月
兼重昇・直山木綿子編著『新小学校学習指導要領の展開 外国語活動編』2008年12月 明治図書

(教科教育研修課)